

浜町から 風の便り 48

2022 (令和4) /10/1. 船橋市浜町 辻 秀 幸

モスmoth ガが蛾 (昆虫綱チョウ目)

ガと呼ばれるのは多く、チョウと呼ばれるのは少ない、と前に言いました。もう少し正確には、チョウ目は全部で6000種ほどで、その内いわゆるチョウは250種で、残りはガ、つまりほとんどガだということになります。あなたのまわりには、見かけるチョウの20倍から30倍ほどガがいるのだということになります。

シモフリスズメ (スズメガ科)

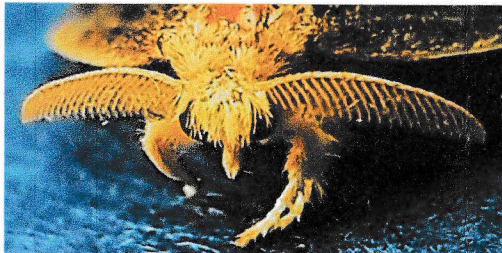


2021/7/11. 船橋・海神6 京成線沿いの生垣の支柱

背景になじんでいて、これなら小鳥はだまされそうだと納得する。こういう保護色はどうやって身につけたのだろうか。巨大トンボ「メガネウロプシス・ペルミアナ」の時代から、食うか食われるか、生きるか死ぬかを乗り切るために必死に懸命に工夫を重ねたのだろうか。それとも神の思召しだろうか。どうもそうではないような気がする。たまたまこういう模様を持ったガが生き残った、そう考える方が無理がないような気がする。

チャドクガ? (ドクガ科) (下左)

蛾眉という言葉がある。細長く曲がって美しい眉、転じて美人の称(「漢語林」)。漢字発祥の国では蛾は嫌われていなかったようだ。左は細長くとは言わないだろうから、右のような形の眉(触角)のことかしら。今、細い眉をした人にガのようですね、と言ったら反応やいかに。



2017/7/3. 船橋・浜町1. マンション階段1F

サザナミスズメ (スズメガ科) (下右)



2020/6/5. 船橋・浜町1. 「浜町公園」

ホタルガ (マダラガ科)



2019/7/3. 船橋・浜町1. 「浜町公園」

カクモンヒトリ (ヒトリガ科)



2021/4/21. 船橋・浜町1. マンション1F

上の二つはチョウかガかと問われたら、初めて見た人でもガと答えるのではなかろうか。止まっている時、ガは羽を屋根状に閉じる、チョウは合わせて立てる、と区別される。しかし専門家は例外があるよ、と説明する。

名前を探す時に困るのは、見つけたムシが図鑑通りの姿ではないこと。図鑑の説明でも、色はいろいろ模様も変化多しなどとあるように、個体差がある。栄養や環境によってだろうか大きさも随分幅がある。

読売新聞9月15日夕刊で、山梨県にあるチョウを舞わせている施設で、オオムラサキの中に、羽が左右で違う色のものがあることを長野県の高校生が見つけた、とチョウの写真付きで報じられた。左羽が雄を示す青紫色で、右羽が雌の茶褐色。雌雄型という珍しい現象だという。人も同じだろう。個人差がある。

マダラツマキリヨトウ (ヤガ科)

これだけ特徴のある模様なら名前はすぐわかる、と喜んだのは束の間。図鑑には似たような模様の写真がいくつも並んでいる。模様のわずかな違いだけで仲間分けしているわけではないだろうけれど、シロウトには模様の違いが大きな頼り。個体差だけでなく、鱗粉がすり減っていたり、区別する一つの目安らしい羽の端が欠けていたり、と悩むことになる。その上、本によって色や模様が違って見えるから、ますます悩みは深まる。どこまで個体差の範囲、印刷上の色違いとみればいいのか。図鑑でも「キンバエの一種」としている例があり、専門家でも難しかったり、整理がついてないということもあるようだ。



2017/9/18. 船橋・浜町1. マンション3F